

2017年11月14日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 471

データサイエンス人材の育成と教学展開

～ビッグデータ・I o T・A I / 深刻な人材不足 / カリキュラム / 教員編成～

12月15日〈金〉開催

ご参画・ご派遣のお願い

I C Tの飛躍的進化による“第4次産業革命”をテコに、サイバー空間とフィジカル空間を融合し、経済発展と社会課題の解決を目指す「超スマート社会（Society 5.0）」の実現を、第5期科学技術計画（2016年）は構想しております。

現在、内閣官房・内閣府・総務省・経産省及び文科省等において、1. サイバーセキュリティ 2. I o Tシステム構築 3. 人工知能（A I） 4. デバイス 5. ネットワーク等の基盤技術、及び 6. 数理科学振興の戦略的強化に向けた施策展開に注力しています。

経産省の「I T人材の最新動向と将来推計調査結果」（2017年6月）によれば、現在のI T人材数は約90万人で、不足数は約17万人にのぼり、しかも、2019年をピークに供給は減少傾向にあり、より人材不足が拡大するとの予測をしております。情報セキュリティ人材は現在約28万人、不足数は約13万人、2020年にはさらに20万人弱に拡大。先端I T人材は、同約9.7万人、不足数は約1.5万人から4.8万人に拡大するとの警鐘をしています。

特に、データ分析技術者については、現在、I T人材の1%、実数で1万人に届かないとのデータを「I T人材白書 2016」で公表しています。また、「科学技術白書」（2016年版）によれば、統計学や機械学習などのデータ分析の訓練を受けた大学卒業生は、1年間に米国が24,730人なのに対し、日本は3,400人となっています。

文系・理系を問わず、全学的に数理・データサイエンスの教育強化を図り、数理的思考力とともにビッグデータの処理・可視化技術及び解析法等に習熟し、新たな価値創造を担う“データサイエンス人材”の育成が、学部・大学院において急務となっております。

本セミナーにおいては、4大学のキーパーソン各位にご出講いただき、データサイエン

ス人材の育成に関する、先進事例の報告と論展を賜ります。

来年度データサイエンス学部を新設する横浜市立大学からは岩崎学氏に、学部設立の経緯と教学プラン及び行政・企業連携の今後についてご講義いただきます。

東京工科大学からは亀田弘之氏に、コンピュータサイエンス学部におけるICT実学に向けた挑戦と実際をご教授いただきます。

日本で初めてデータサイエンス学部を創設した滋賀大学からは高田聖治氏に、文理融合型カリキュラムの実際について詳述していただきます。

多摩大学からは、大学院でのデータ分析・活用・管理力を有する経営人材の養成について今泉忠氏にご講義いただきます。